

管理運営状況評価の実施について

区は、必要なサービス水準を確保するため、指定管理者制度適用施設モニタリング実施要領（以下「実施要領」という。）に基づき、指定管理者の管理運営状況を評価しています。

令和3年度のモニタリングを実施するにあたり、参考とさせていただくため、以下により運営委員の皆様には評価をお願いいたします。

1 評価方法

- (1) 評価基準は、実施要領に準じて3段階（A：優、B：良、C：要改善）としています。区が求める基準を満たしていれば、「B：良」としています。
- (2) 「指定管理者の管理運営状況評価票（令和3年度）」【資料4】の4つの評価項目について、参考資料および利用時の状況等に基づき、総合的に評価してください。

2 評価基準日

令和4年2月1日

3 評価票提出期限

令和4年2月28日（月）必着

4 提出先

人権・男女共同参画課

FAX：03-3993-6512

e-mail：JINKENDANJO@city.nerima.tokyo.jp

管理運営状況評価票「1 窓口サービスの状況」

・職員配置

指定管理者 12名（常勤5名・非常勤7名、男性3名・女性9名）

受付・管理	常勤4名 非常勤1名	A番：午前8時30分～午後5時00分 B番：午後1時30分～午後10時00分 C番：午前8時30分～午後2時30分
事業	常勤1名 非常勤3名	A番：午前8時30分～午後5時00分 A番：午前9時00分～午後5時00分 E番：午前9時00分～午後2時00分
警備	非常勤3名	D番：午後5時00分～午後10時00分

管理運営状況評価票「2 施設の維持管理の状況」

- ・敷地内の樹木は定期的に剪定作業をし、害虫の発生防止に努めている。
- ・石神井消防署立会いのもと、3施設（えーる、つつじ保育園、石神井町学童クラブ）合同の防災訓練を令和3年11月10日に実施した。新型コロナウイルス感染症防止対策をしながら、マスク着用、話をしないなど注意を払い実施した。（参加者169名）
- ・昨年度に引き続き、水害を想定した自衛避難訓練を令和3年6月18日に実施した。
- ・館内にAEDを常設し電池、パットの定期点検・交換をしている。職員は全員救命講習を受講し、緊急の場合に備えている。（更新者3名受講）
- ・各種掲示物・配架物は概ね次のように分類して情報提供している。
 - 1階ロビー：区内の事業関係と他地域の情報
 - 2階交流コーナー：女性問題関係
 - 3階ロビー：団体の持ち込みチラシ
 - 女性のための就活応援コーナー：女性の就労関係情報
- ・カセットレコーダー、カッター等の備品は利用者からの要望を尊重しながら定期的に点検し、必要に応じて新しいものと取り替えている。
- ・備品の故障・破損についてはその都度修繕、購入を行っている。
- ・水回りの清掃は随時実施のうえ、定期点検を実施している。
- ・気象情報を確認し、台風接近時は迅速に排水口など水回り等を点検している。降雪時には転倒防止の融雪剤の散布など、安全確保に努めている
- ・隣接の練馬区立駐輪場跡地に通行人からの吸殻や空き缶の投げ入れがあるため、定期的に清掃し安全維持に努めている。
- ・敷地内の点検を日常から行い、不法投棄がないかなど注意を払っている。
- ・日常的な清掃は、常駐する業者に依頼している。また、定期的に害虫駆除やフロアのワックスがけ、カーペット清掃を行い、館内の衛生に配慮している。
- ・エレベーター、自動ドア、消防機器などを定期的に点検し、安全管理に努めている。
- ・カーテンクリーニングは、1階・3階、2階と分けて隔年で行っている。
- ・ピアノの調律は毎年2回、実施している。利用者の依頼により随時対応している。
- ・廃棄物の減量と再利用の取組については、来館者向けへゴミの持ち帰りをお願いすると共に、ごみ分別を徹底している。

- ・館内の観葉植物の管理を定期的に行っている。
- ・入口花壇の植え替えを定期的に行っている。
- ・テング熱対策に蚊の発生防止のため、殺虫剤を年に数回散布している。
- ・石神井警察署と普段から連携をとり、見回り強化や不審者対策の職員向け講習会を依頼した。
- ・和室の押入れ内を定期的に点検・清掃、また座布団のクリーニング等をして管理をしている。

管理運営状況評価票「3 サービスの維持向上の状況」

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、飛沫防止シート・パネル、手指消毒の館内・各部屋設置、部屋利用団体への除菌作業の協力依頼、受付での利用者カードの記入など、引続き対策を徹底している。
- ・利用者アンケートで出された意見には、できるものから順次対応している。
- ・昨年度のコロナ禍の中、利用者からの要望でWi-Fi通信環境を視聴覚室・会議室に整備した。オンライン形式の講座開催、施設の利便性向上につながっている。
- ・車椅子、シルバーカーの利用者増が見込まれるため、段差のある保育室と和室の利便性向上を目的として移動用のスロープを設置した。
- ・落下による危険防止のため、駐車場付近のカリンの実を採取した。
- ・毎年度末に利用者懇談会を開催し、施設利用に関するご意見を直接伺うなどの場を設けている。（次回は令和4年4月を予定）
- ・敷地内で収穫したゴーヤ・かりん、ラベンターで作ったポプリを窓口で配布し、利用者との交流に役立っている。
- ・見学カレンダーを毎月200部～300部発行している。また、ホームページも毎月更新し、好評を得ている。
- ・団体登録関連の申請用紙を受取る際には、男女共同参画センターの設置目的の説明を行い、出前講座の案内を積極的に行っている。
- ・登録団体からの要望を受け実施している男女共同参画出前講座は、令和3年度は3団体32名が受講した（12月現在）
- ・職員が以下の研修に参加した。
 - <内訳>
 - 衛生推進者養成講習（1名）
 - 普通救命講習（3名更新）
 - （公財）日本女性学習財団キャリア支援デザイナー更新講座（1名）
 - 男女共同参画の視点からの被災支援を行う人材育成研修（1名）
 - 情報セキュリティ研修、防災講座（12名）

管理運営状況評価票「4 講座事業の実施状況」

【センター主催講座など】

- ・「子育てママのボレボレ塾」は、新型コロナ感染拡大という状況の中、ひきこもりがちにならざるを得ないヤングママの孤立感を少しでも和らげるために5回シリーズに組み立て、感染対策を万全にして実施した。受講者からは「このような時期に、この講座で同じ立場のママと直接話すことができる貴重な機会だった」「子どもから離れて、自分を見つめることができた」などの声が寄せられている。母親のストレスを少なくして子どもへの虐待を少しでも防止するためにも、孤立しがちな子

育てママ対応講座の必要性を感じている。

- ・社会問題となっている生きづらさを抱え、ひきこもりがちな若年女性を対象とした「わたしのこれからライフ」シリーズは、西東京市公民館、東久留米市男女平等センター、一般社団法人ひきこもりUx会議との連携により、居場所づくりとして定着しつつある。地元では参加しにくいのが、少し離れた地域ならば参加しやすいという当事者たちにとって、各地に居場所ができることが望まれている。
- ・夏休み中に、働く親を支援するために行っているえーるキッズ・エンジョイサマーでは、プログラミング講座を開催している。応募が多く、好評である。
- ・国の「女性に対する暴力をなくす運動」期間（11/12～11/25）に合わせて、継続して実施しているイベント「えーるスクエア」を実施した。新型コロナウイルス感染症予防のため、参加者数を制限しながら対面式講座「親子で学ぶ生と性講座～思春期のこころとからだ」を実施した。年齢にあった性教育の必要性を考える機会として好評だった。

また、昨年度制作した「愛する人を暴力の被害者・加害者にしない！」という横断幕を3階のペランダに掲げ、館内は暴力防止のシンボル・カラーである紫色で統一したデコレーションやエントランス周りのパープルのイルミネーションによる装飾など、集客イベントを控えざるを得ないため、外に向けてアピールした。内閣府男女共同参画局の「パープルライトアップ」に施設夜景の写真を応募し、内閣府男女共同参画局ホームページに掲載された。

その他、期間中に来館した方に、リーフレット『もしかして・・・デートDV?』とセンター手づくりのラベンダーのポプリ、児童虐待防止キャンペーンのマスクなどを配布した。このポプリは、センター3階の庭園などで育てたラベンダーを活用して、ねりま若者サポートステーション利用者の皆さんの協力を得て作っている。若者サポートステーション利用者の中には、このポプリ作り作業をきっかけに自分の特技を見出す方もいたという報告があった。

- ・LGBTQに関する講座は、当事者が講演者となって行う講座型ではなく、当事者がファシリテーターとなって、グループワークを行いながら理解を深めていく形で実施したところ、好評だった。
- ・隔年毎に実施している女性のための「プチ起業講座」は、「趣味以上起業未満」ともいうべき特技を持つ方々が、すぐにでも、あるいはいつの日か...という思いを持って参加するケースが多い。一昨年度に立ち上がった受講者有志のグループをフォローアップ支援したところ、区民企画講座として発展し、2年連続して実施したところ好評だった。今年度も1グループが誕生して区民企画講座に応募しており、講座とその後のフォローアップの成果と考えられる。
- ・男性への働きかけとして、『お父さんと作るおうちごはん』シリーズは新型コロナウイルス感染症予防のため持ち帰って食べてもらう形式の「ご飯でクリスマスケーキ」を、勤労福祉会館で実施し、好評だった。
- ・今年度実施予定の区民企画講座は10件のうち9件は、コロナ感染防止対策をしながら終了した。3月には最後の1件を実施する。

< 3月までの予定講座 >

- ・コミュニケーション能力向上は、区民が家庭・地域・職場で、平時はもちろん、災害時の避難所運営においても必須のスキルである。これまで、アサーション講座・ディベート講座・ファシリテーター講座・ロジカルシンキング講座などを実施してきた。今年度は、ファシリテーション講座を一步進めて模擬会議のワークショップを設けて行う予定である。今年度も新型コロナウイルス感染症予防のため、オンラインで4回連続の講座（夜7時～8時45分）として募集を開始したところである。

参加者の中には、オンライン講座という学習方法に関心を示す傾向があり、講座の中に、日本の

ジェンダーギャップ指数等のテーマを含めることで、男性への男女共同参画意識の醸成に効果的であった。

- ・人生半ばの女性応援講座「私を活かす就活作戦！」は50～60代の女性を対象に、女性の生き方を俯瞰した上で就労することを考える2回連続講座として実施する。(2月18日、25日)
- ・男女共同参画の意識をもって住みよい地域づくりの活動をするために「地域活動デビュー!!～あなたのチカラをまちのチカラに」を実施する。(3月27日)

その他

- ・保育(無料)の対象は生後6カ月以上就学前までと拡大したが、新型コロナウイルス感染症拡大もあり、自粛のため全体的に保育利用者が少なかった。
- ・センターと繋がりのある人材が事業に講師として協力・貢献することで、経験と実績を重ねている。活動の場と機会を提供すると共に、人材の発掘と育成を目的に、ホームページに「えーるトップランナー」というコンテンツを新設して紹介している。
- ・ホームページを男女共同参画応援サイトとしてリニューアルした。前述の他、「こんな事ある?ある!」シリーズとして、マンガとコントのサイトを男女平等意識の醸成を目的に新設した。
- ・館内展示は、「女の暦」「男女共同参画週間」「女性に対する暴力をなくす運動期間」「国際ガールズデー」「国際女性デー」「SDG's」などの国内外のトピックスだけでなく、男女共同参画に関するテーマの展示を実施している。「展示が変わるたびに楽しみにしている」と声をかけてくださる方がいるのは、とても励みになっている。
- ・一般社団法人ひきこもりUX会議は全国規模で活躍する団体ではあるが、センターの登録団体でもある。今年度は10月から11月にかけて、「カルクナル・スタディズ」(引きこもり若年男女の社会復帰を目指す企画)として10回の連続講座を実施するにあたり、会場提供などの支援を実施した。
- ・昨年度の男性対象講座「オトコの暮らし力アップ講座」受講者の中の希望者にフォローアップとして男女共同参画に関する情報を提供したところ、人権や男女平等を基本にした生き方について考えることの重要性に気づき、「生き方を考える井戸端会議」を立ち上げて登録団体となり、自主活動を開始した。メンバーが交代で講師となり、月1回の定例会で学習会と交流会を行っている。
- ・「えーるだより」(2,500部発行)は、今後の講座予定をメインに、参加者のアンケートや講座風景の写真とともに終了講座内容を掲載している。終了講座の報告は、参加できなかった区民へ情報を提供することによる男女共同参画の啓発と考えている。

また、各号に相談室へのアクセス情報や図書・資料室の情報なども掲載し、区民へのセンター情報提供に努めている。

- ・講座実施時に手話通訳希望者支援を行っているが、申込者はいなかった。
- ・大学生2名のインターンが、10日～14日間センターの業務を手伝いながら実習した。うち1名は、前年にレポートを書くために取材に来た男子学生で、男女共同参画により関心を持ちセンターを選んだとのことだった。もう1名は女子学生であり、インターンをしながら男女平等に関心が高まり、卒業論文のテーマにするとのこと、その後も来館している。また、高校3年の女子学生が大学推薦入試の論文に男女平等をテーマにするということで取材に来たが、その後合格をしたとの連絡があった。このように、若い世代がセンターの役割に関心を持ち、活用することが多くなってきた。

【他団体との連携】

- ・ハローワークマザーズコーナーと練馬区の連携による20歳未満のお子さまを持つ母親対象、「子育てママの再就職応援セミナー」をえーるで継続して実施しており、次年度も実施する。

- ・ねりま若者サポートステーション利用者によるえーるスクエア時に配布するポプリ制作作業は、同センター利用者の興味・関心を引き起こす効果もあり、これまで通りネットワークを継続している。
- ・DV防止週間には、十文字学園女子大学生生活情報学科の協力により、パネル「女子大生がイメージするデートDV」を展示したが、新作ができ次第お知らせをいただくことになっている。